

山形大学附属学校園だより

六 稜

2011. 3. 1

【発行】
山形大学附属学校園

【印刷】
坂部印刷株式会社

附属学校の新しいあり方—山形大学方式



附属学校運営部長
貝 山 道 博

運営部ができてから、この4月で3年目を迎えます。運営部は、校長の専任化と抱き合わせてきました。附属学校園も、公立学校と同様校長・教頭という管理職体制になり、校長は公立学校から迎えることになりました。

附属学校園は大学の附属ですので、大学との関係が維持されなければなりません。そのために作られたのが運営部です。大学教員が校長として自分の学校園を見ているのではなく、運営部の教員3人が4つの附属学校園を統括的に見ていくことになりました。各附属学校園の直接の運営は担当の校長に任せますが、大学に関する事項、4つの附属学校園間に関わる事項などについては、運



国立大学法人山形大学理事
北 野 通 世

専任教員長制、附属学校運営部の設置の意義

私が、附属学校担当理事となったとき、大学内の認識はもとより、附属学校園側の認識においても、各附属学校園はそれぞれ独立した学校であるという認識が希薄であったと思われる。大学側（特に地域教育文化学部）はもとより、附属学校園側にも、附属学校園は大学（かつては教育学部）に隷属するものであるという漠然とした認識が支配していました。

国立大学法人山形大学は、国立大学法人法第23条の規定に基づき、「山形大学」に附属させて、「山形大学附属幼稚園」、「山形大学附属小学校」、「山形大学附属中学校」、及び「山形大学附属特別

支援学校」という四つの学校を設置しています。「山形大学」を含め、国立大学法人山形大学が設置している五つの学校は、学校教育法上それぞれ独立した学校であります。それ故に、四附属学校園は、それぞれが責任を持って、学生、生徒、児童、又は園児の教育に当たらなければなりません。

右のような認識に立ち、平成21年度から、大学（地域教育文化学部）教員の兼任制（全）長制を廃止して、専任教員（園）長制とし、四附属学校園全体に対する設置者たる国立大学法人山形大学の責務うち、日常的な管理運営業務を担う組織として附属学校運営部を設置しました。附属学校園だより「六稜」の発行は、この制度改革により、四附属学校園の連携協力がより密になることができたことの一つの現れであろうと思います。

大学・学部の教育研究計画に従い、教育の理論及び実践に関する研究並びにその実証を行い、学生の教育自習を行うという附属学校園の設置目的を踏まえ、四附属学校園が、緊密な連携のもと、今後ますます充実するように、担当理事として努力してゆく所存であります。皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

運営部が責任を持つて事にあたりま。他に先駆けて導入された山形大学方式は徐々に他大学に広まりつつあります。公立学校も附属学校園も子どもの教育という目的を共有しており、その教育の方法・内容は大きく異なると思いません。しかし、附属学校園には、設置以来そうであるように、教育実習の場、附属学校教員と大学教員との連携・協力による教育方法・モデルの開発の場としての機能が加わります。これらは附属学校園だけが持つ役割です。

現在附属学校園の存在意義が問われていますが、それは設置趣旨を改めて再認識せよという世間からのメッセージだと思います。山形大学附属学校は、明治以来教員養成はもとより子供の教育を通じて有意な人材を山形県内外に輩出してきました。その意味で大学が果たすべき地域貢献の最も重要な部分を長い間担ってきたという自負を持ちつつも、運営部は言うまでもなく、附属学校園の教職員全員が初心に立ち返り、改めてこのように世間の要請に答えなければなりません。今後ともこれまで以上にOB・OGおよびPTAの皆さまのお力添えをお願いいたします。



附属中学校

4月8日、新入生160名を迎え、全校生徒470名で新年度をスタートしました。5月12日の開校記念式では、山形県知事、吉村美栄子様より「若き附中生に望むこと」という演題で記念講演を賜りました。また、6月19日・20日に開催された市中学校総合体育大会では、陸上女子の総合優勝、男女剣道団体2位、3位、女子ソフトテニス2位を始め、延べ41名の入賞、21名が県大会出場を決める活躍が見られました。中でも剣道は男子団体が県大会、東北大会3位になり、個人では佐藤舜君が県大会1位で、全国大会出場を果たしました。生徒の頑張り拍手を送ると共に、保護者の皆様の温かいご支援に感謝申し上げます。

主な行事と日程

- 4月28日 PTA総会
今年度よりPTA歓迎会と全役員会を統合して実施。
- 5月27・28日 学習指導研究協議会（公開研）
- 7月8日 大運動会
- 8月下旬 2年生の関西研修旅行など、各学年で宿泊研修を実施。
- 11月9日 校内合唱コンクール（テルサ）



特別支援学校

附属特別支援学校では、附属学校で学ぶ幼児児童生徒の皆さんのより良い学びのために、大学と連携を図りながら教育相談活動を行っています。

附属小学校3、4年複組との交流及び共同学習では、楽しい活動の中で両校児童の「育ち」を感じる充実した学習ができました。学習発表会では、附属幼稚園も組のみならず、本校小学部児童の「おみせやさん参しよう」や高等部バザーのお客さんとして参加し、すばらしい交流ができました。特に、高等部生徒の作業製品の製作実演では、もも組のみならずの真剣な眼差しに、本校生徒もいつも以上にはりきり、両校にとって実り多い交流となりました。

6年間続いている音楽の授業における附属中学校との交流及び共同学習では、両校生徒がお互いを認め合うことで、音が広がり、心が豊かになりました。

これからも、附属学校で学ぶすべての幼児児童生徒の「つながり」を大切にしたいと思います。

主な行事と日程

- 4月24日 PTA総会
- 5月4日 運動会
- 8月29日 夏期セミナー
- 11月26日 公開研究会
- 12月10日 学習発表会
- 2月2日 冬季学習会



附属幼稚園

「あいうえお附幼の子」（あと片付けをしっかりと、いろんなことに挑戦、うつくしい言葉を使う、えがおで挨拶、お話をちゃんと聞く）を目指して、保護者の皆様の協力を得ながら保育活動の充実に努めてきました。

少人数グループによる園長・教頭と保護者との懇談会「あくしゅサロン」を年13回行いました。子育ての様々な思いを語り合う中で、同じ様な思いの方がいることに安心し、子育てのヒントが得られたという声がたくさんありました。こうした活動を通して、家庭と園との連携を深め、より豊かな園生活が送れるようにしていきたいと思ひます。

主な行事と日程

- 4月27日 PTA総会
- 5月8日 親子園外保育
- 6月11日 公開研究会
- 9月23日 運動会
- 12月10・17・21日 ステージフェスティバル
- 2月25日 年長さんありがとうの会



附属小学校

附属小学校では、「みのり班」という縦割り班があり、日常的に「つながり」を大切にしています。その班で清掃や体験活動に取り組んでいます。そのような取り組みの中で、上学年生は下学年のことを思いやり、下学年生は上学年生のよいところを受け継ぎ、自分達が大きくなったときに、後輩達につなげていくことができるようになってきています。今年度は、豊かな心をはぐくむ系統的な異学年交流として、みのりスポーツフェスティバルを実施し、みのり班での学習を充実させました。

来年度から1・2複組が閉級となり、新しい体制で教育活動が実施されますが、みのり活動でのつながりを生かして、ますます素敵な附属小学校を創っていきたく考えています。

主な行事と日程

- 4月23日 PTA総会
- 6月4日 春の公開研究会
- 9月11日 みのりスポーツフェスティバル
- 11月12日 秋の公開研究会
- 2月25日 6年生を送る会

編集後記

山形大学附属学校園だより「六稜」第三号を発行することができました。今年度は、猛暑や大雪に見舞われ、異常気象という言葉がびっぴりたりした。しかし、すべての学校園の校章にもなっている「六稜」も「雪華」のように、子ども達は、北国山形でたくましく、強く清らかに生きる姿を見せてくれています。

また、今年度は大学及び運営部の先生方のご指導のもと、附属学校園の連携の充実がはかられた年でもありました。その活動の一部を本紙二、三面に載せてみました。質を高めながら、多岐にわたって取り組まれています。今後各校園の特徴を理解し合い、生かしながら、附属学校園のつながりが更に深まることを願っています。

編集委員

- 富塚幸恵 山本由紀 幼
- 赤羽三枝 笠原博美 小
- 佐藤昌子 佐藤恭子 中
- 阿部ゆかり 阿部登志子 登

親子で歩むPTA活動を目標して

附属幼稚園PTA会長 吉岡 裕志



いも煮会 (幼PTA)

前年度、「ふようおやじ会」を有志参加型として発足しました。今年度の事業は、園庭整備3回と芋煮会協力でした。全学年参加の芋煮会、7つの鍋の調理を担当しました。(子ども達の不安げな表情は今も記憶に残っております)この様な活動の中で「○○ちゃんのお父さんですか?」「○○がいつもお世話になってます」「私は○○組の○○のおやじです」等、おやじ同士の会話が自然と聞こえてくるようになりました。活動を共にして、「おやじ」同士の絆が出来たのも、大きな成果だと思います。これらは、附属幼稚園に新しい歯車が出来たのではないかと感じております。附幼という大きな時計を、より正確に作動させるべく、すばらしいPTA活動を刻んでくれるのかなと考えております。

今後、PTA活動は小・中学校と続きます。全ては子ども達の為、親子で楽しみながらPTA活動に参加して頂きたいと願っております。



幼稚園の運動会に中学生ボランティア (幼・中)

...感心したのは中学校のボランティアさん、会場入口でのあいさつに始まり、男子中学生も恥ずかしがる事なく、幼稚園児と楽しそうに競技する姿にとても好感を覚えました。我が子もあのように育ったらいいな...と重ねてしまいました。
(幼稚園保護者 感想より一部抜粋)

もっと広く

附属中学校PTA会長 佐藤 知彰

今年度から全国の附属学校園のPTAの会長会並びに研修会が、東京に参集して行われるようになりました。引き続き東北地区だけの会長会と研修会も開催されますが、全国規模となると、各地の現状を聞くことができません。中学校の情報は聞くことができません。より、本校でも導入可能な事象が多く、今後の取り組み方の参考になりました。中学校ともなると、活動の場がなくなっているのが現状です。幅広い方々にほんの少しでもかかわっていただけるように検討すべきかと考えます。ひとつ気になったこと、球技大会や対外的なソフトボール大会での登録者が少ないことです。運動不足の体にムチ打って、交代要員がいないうまま疲労困憊(小臓)だけか。これこそ幅広く参加いただけるものかと存じます。終わりに、今後の四附PTAの連携がますます発展することを祈念いたします。



ソフトバレー大会 (中PTA)



ゆず園地でいっしょに遊ぼう (幼・小)



貝を取る自分 附属小3年 川合鷹勢



特別支援学校の学習発表会に幼稚園児参加 高等部生徒の実演に興味津々 (幼・特)

附属小学校のPTA活動のご紹介

附属小学校PTA会長 金山 知裕

平成18年に保護者全員が活動に参加する方法に移行、学校の環境整備や、立派な指導、公開研究会の支援などの諸活動に必ず一度参加する「二人一役運動」を展開しています。今年度5年目、先輩保護者の皆様の努力のおかげで順調にすすんでおります。

今年度から入学児童が他の学年より少なくなりました。子ども達の学校活動にも変化がはじまっており、今後は私達保護者の果たさなくてはならない役割も変化が予想されます。六年生が入学したところと比較して学校を取りまく環境、社会の情勢に変化が生じていると感じていますし、子ども達の学びのために何をなすべきか、少ない人数でどのように取り組むべきか、新たに検討が必要なた時期に入ったと考えています。



レクリエーション (小PTA)

活動を通して、互いに知り合い、関心を持ちあうことは、非常に大切なことと感じます。反対に無関心であることが一番問題であり、子ども達のよりよい学びのために、今後も皆で先生方と手を携えて取り組んでまいりたいと考えています。



特別支援学校の築山で雪上活動 (小・特)



学習参観 (小・中)

今年度の活動を振り返って

附属特別支援学校PTA会長 船山 孝子

今年度の活動を振り返るにあたり、本校のPTA会員の皆様はじめ、附属幼・小、中PTAの皆様及び運営部の先生方のご協力で改めて感謝を申し上げます。

校内の活動では各専門部(企画研修部、保体部、文化部)がそれぞれに企画した視察研修やボウリング大会、趣味の教室等が好評でしたが、今年度は部会長として、県教育委員会への要望書とりまとめに関わりました。本校は大学附属の学校ではありますが、同じ県内の特別支援学校という立場で、他校の皆様から直接学校の様子や保護者の生の声を聞くことができたことは、今後の山形県の特別支援学校の在り方や就労支援について考える良い機会になったのではないかと思っております。今後とも子ども達とともに歩む私達を見守っていただき、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



文化部企画「趣味の教室」 紙粘土でスイーツ作り (特PTA)